

## 建設企業常任委員会行政視察概要

令和4年7月21日（木）  
於 岡崎市議会 委員会室  
午後1時30分～午後3時00分

### 1 調査概要

「サイクルシェア事業及び自転車活用推進計画について」

岡崎市総合政策部企画課長

総合政策部企画課企画2係主事

土木建設部建設企画課長

土木建設部建設企画課事業統括調整係長

#### ○サイクルシェア事業

IOTのノウハウの蓄積（位置情報管理、バッテリー残量管理等）、民間によるシェアリングサービスの可能性検討、車載機器で取得できるデータのまちづくりへの活用を目的として、平成29年10月より、自転車台数30台、ポート（無人の貸出・返却ステーション）設置場所6カ所から始まった。5年が経過した現在は自転車台数52台保有、ポート16カ所プラス民間事業者2カ所に設置している。時間・料金は15分50円（上限は12時間1,000円）。運営を一般社団法人岡崎市観光協会に委託し、システム開発はソフトバンクの社内ベンチャーであるオープントリート㈱が行っている。貸出・返却は18カ所のポートであればどこでも可能となっている。利用回数は導入から年々増加している。

#### ○自転車活用推進計画

乙川リバーフロント地区をはじめとした中心市街地等の回遊を目的として、平成29年から導入したサイクルシェアや、サイクルツーリズムのフィールドとして山間部が活用されるなど、岡崎市内では様々な目的で自転車が利用されている。

こうした背景の下、自転車の活用による環境負荷の低減、市民の健康増進、観光施策・施設との連携などさまざまな課題に対応するため、交通の安全を図りつつ自転車の利用を促進する計画として令和4年3月に策定された。

計画期間は令和4年度から令和12年度までの9年間。

自転車通行空間の路面標示に独自仕様のピクトグラムをしようするなど、独自性も出している。



## 2 主な質疑応答

問 自転車の保有台数52万台は少ないと考えているか。

答 少ないので100万台まで増やしたいと考えている。民間に事業を渡して独自で採算が取れるようにしていきたい。

利用が多いのは地域の方の利用が多い。

問 バッテリー交換はどうしているのか。

答 小さい自転車はバッテリー残量が事務所で把握できるので、少なくなってくると人が出向いてバッテリー交換を行っている。大きな自転車は専用ポートに駐車すると自動で充電できるようになっている。

問 自転車の対人・対物の保険はどうなっているか。

答 対人・対物ともに無制限となっている。

問 自転車の走りやすい道路の整備は愛知県全域で取り組まれているのか。

答 岡崎市では矢作川、乙川の河川緑地内をサイクリストが快適に走れるように整備している。隣の安城市でも何十キロと快適に走れるような整備が行われている。道路幅が広くとれているところは自転車通行空間の整備がしやすいが、細い道路の自転車通行空間の確保が課題となっている。

問 ユーチューバーである東海オンエアのラッピング自転車の反響は大きいか。

答 若いファンの子たちが聖地巡礼のような形で利用し、SNS にアップしている。

問 自転車の種類を今後増やしていくのか。

答 今後は、若い子向けに電動キックボードや、高齢者向けに4輪のシニアカーなども検討していきたい。

以上